

「ささえーる」ポイント集について

1 「ささえーる」ポイントとは

「ささえーる」ポイントは、児童生徒を対象に行った主体的な行動に関する実態調査の結果と、教員を対象に行った特別活動における指導の工夫や指導に難しさを感じていることに関する実態調査の結果から、児童生徒の主体的な成長・発達を支える働き掛けのポイントを作成し、3つの類型に整理したものです。

児童生徒

※一部抜粋

(小5～中3の児童生徒 n=1758)

主体的に行動する理由 主体的に行動しない理由

- | | |
|------------------|--------------|
| ・集団や自分自身をよりよくしたい | ・自信のなさ |
| ・立場や役割の自覚 | ・手段や方法が分からない |
| ・周囲からの励まし | ・機会や経験の不足 |
| ・これまでの成功体験 | ・必要性を感じていない |

教員

※一部抜粋

(教員 n=177)

特別活動での働き掛けの難しさ

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・心に響く声掛け、褒め方 | ・合意形成の指導 |
| ・当事者意識を持たせる手立て | ・消極的な児童生徒への対応 |
| ・自分に自信がない児童生徒への関わり方 | |
| ・目立たない児童生徒への対応 | |

児童生徒には

場や機会
の確保

手段や方法
の習得

成就感や自信
の獲得

の3つが必要

教員には

児童生徒が成長・発達する過程を支えるための
ポイントの理解

が必要

『支える』生徒指導の働き掛けを3つに類型化し、ポイントを整理

働き掛けの類型①
【場や機会の設定で支える】

働き掛けの類型②
【手段や方法の例示で支える】


働き掛けの類型③
【声掛けで支える】

2 活用方法

児童生徒や学級・学年の実態例を参考に、「ささえーる」ポイントや主なねらいと指導上の留意点を確認します。「ささえーる」ポイントに対応している指導プログラム案の欄から指導プログラム案の詳細を見ることができます。

3 先生方へ

このポイント集は、児童生徒の主体的な成長・発達を支える働き掛けのポイントに加え、児童生徒や学級・学年の実態例、主なねらいと指導上の留意点を併せて示しています。また、クリック一つで指導プログラム案の詳細を見ることができ、具体的にどのような授業の、どのような場面で、どのように児童生徒に働き掛けることができるかイメージしやすくなるようまとめています。児童生徒の実態や学級・学年の実態に合わせてご活用ください。日々児童生徒の更なる成長のためにご尽力されている先生方の指導の一助になれば幸いです。

「ささえーる」ポイント集			
宮城の児童生徒の主体的な成長・発達を			
ささえーる 			
児童生徒や学級・学年の実態例	働き掛けの類型①【場や機会の設定で支える】		
	「ささえーる」ポイント	主なねらいと指導上の留意点	「ささえーる」ポイントに対応している指導プログラム案
課題を自分事として捉える意識が低い。	①-1 教員主導ではなく児童生徒が課題を設定する。	児童生徒が課題を自分事として捉える意識を高めるために、課題を教員から与えるのではなく、児童生徒が課題設定を行う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 聞きたい言葉、いやな言葉 学級生活を充実させよう 級友とよりよい人間関係を築こう 合唱コンクールを成功させよう
自分から進んで活動に参加しようとする意欲が低い。	①-2 児童生徒の意見・要望・疑問に耳を傾ける。	「私一人が言っても変わらない」という気持ちにさせないため、児童生徒が「自分の意見が大切にされた」と感じる経験を積み重ねられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生を送る会を成功させよう 自発的・自治的な委員会活動を目指して 学級の実態に合った朝の会・帰りの会の活動プログラムを考えよう
意見の共有や、集団での目標設定で活動が終わりになってしまい、行動や実践につながらない。	①-3 意見の共有・集団の目標設定を自己決定へつなげる。	学級や委員会など、集団で共有した意見や設定した目標を実践につなげるために、「集団のために自分は〇〇する」という個人の自己決定を行う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 聞きたい言葉、いやな言葉 学級目標を決めよう 学級生活を充実させよう 合唱コンクールを成功させよう
振り返りを、他者と共有する機会がない。	①-4 振り返りは自己評価に加え、仲間と認め合う活動を取り入れる。	振り返りが形式的な活動にならないよう、仲間を認めたり、仲間から認められたりする経験を積み重ねる場を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級生活を充実させよう 運動会の振り返りをしよう 合唱コンクールを成功させよう
意識の持続が難しい。	①-5 振り返りと自己決定を結び付ける。	振り返りが形式的な活動にならないよう、これからの生活の向上にどのように結び付けていくのかを自己決定させるまでを一つの流れとして設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級生活を充実させよう 卒業生を送る会を成功させよう 合唱コンクールを成功させよう
短学活の活動プログラムが形式化している。	①-6 短学活の活動プログラムを、児童生徒とともに検討する。	集団としての自治的な力を高めるために、児童生徒が学級の実態や課題を考えながら、どのような内容を短学活に組み込めばよいのかを話し合う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級の実態に合った朝の会・帰りの会の活動プログラムを考えよう
上級生への「憧れ」や下級生への「感謝」の気持ちを持たせるきっかけがない。	①-7 異年齢交流を取り入れる。	上級生への「憧れ」と下級生への「感謝」の気持ちを育むために、行事や委員会活動等で、異年齢で交流する場面を積極的に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生を送る会を成功させよう 自発的・自治的な委員会活動を目指して 運動会の振り返りをしよう
委員会活動など児童会・生徒会活動の内容が形式的になってしまっている。	①-8 活動を校外に発信する。	児童生徒が学校で行っている活動の価値を自覚させるために、活動を校内にとどめず、校外でも行ったり、活動内容を発信したりする場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 自発的・自治的な委員会活動を目指して

